

2004年新潟県中越地震に対する(社)日本建築学会の対応

災害委員会

地震発生と初動調査

2004年10月23日(土)午後5時56分に新潟県中越地震(マグニチュード6.8)の本震が発生し、引き続き、強い余震が発生した。

(社)日本建築学会災害委員会では、同日午後6時08分に災害委員会小谷俊介委員長から震央地域に最も近い本会北陸支部の新潟大学工学部加藤大介教授に調査依頼を発信した。北陸支部では、午後7時41分に災害部会長の信州大学田守伸一郎助教授と新潟大学加藤大介教授で、北陸支部が初動調査の準備を開始した。また、災害委員会委員長から北陸支部災害部会田守伸一郎部会長に正式に調査依頼をするとともに、北陸支部災害部会から災害調査をする人に調査事項および日程を北陸支部災害部会に連絡するように要請を出した。

同日午後7時13分には本部災害委員会のホームページで同地震に関する情報を配信を始めた。また、東北支部では、この日のうちに初動調査団を派遣し、翌10月24日(日)から調査活動を開始し、東北支部から調査結果を報告するとともに、災害委員会のホームページとリンクして、情報の共有化を行なった。

10月24日夕方に、北陸支部の中越地震災害調査に関するホームページを立ち上げ、調査状況を配信はじめ、災害の分布・特色・調査活動などの情報を提供した。

11月2日に(社)日本建築学会本部から北陸支部に調査費の援助として80万円を支給することを決定した。

新潟県中越地震の特色

- (1) 内陸部で浅い震源での断層が破壊して、震度 の本震および余震が連続して発生した。
- (2) 震央に近い小千谷市では極めて大きな強震動が観測されたが、観測所周辺の家屋には被害が少なかったことが報告された。
- (3) 台風あるいは豪雨により斜面の土に水分が多く含まれ、地震動により斜面が崩壊し、道路網が寸断されるとともに、家屋が流された被害が多い。
- (4) 主要な大量輸送手段である新幹線および高速道路に被害が生じ、不通となった。特に、高速走行中の新幹線が脱線したが、負傷者が出なかったのは奇跡的である。
- (5) 木造家屋の倒壊あるいは大破が生じたが、鉄筋コンクリート造などの被害は少なかった。
- (6) 大きな構造的な被害が少なかったが、病院建築あるいは学校に被害が多く見られ、災害直後の医療あるいは避難場所として使用できない場合が見られた。非構造部材および設備機器の被害が大きかった。
- (7) 山間部の被災者に対する救援・復興に関する新しい問題が示された。特に、被災者が車の中で避難生活をするることによるストレスで亡くなる方が目立った。

調査速報会

(社)日本建築学会北陸支部と本部災害委員会が共同で、新潟県中越地震災害調査速報会を、12月12日(日)午後金沢工業大学で開催する予定である。説明資料として1,000円程度を集める予定である。

調査報告の刊行企画

(社)日本建築学会北陸支部災害部会を主体として、災害調査を実施した各機関の研究者に協力を求めて、(社)日本建築学会の新潟県中越地震災害調査報告を刊行する企画書を刊行委員会に提案した。